

会議議事録（要旨）

会議の名称	令和6年度 第6回鳥取市地域福祉計画・地域福祉活動計画 作成委員会
開催日時	令和7年1月30日（木）9：30～11：30
開催場所	鳥取市役所本庁舎 6－3～4会議室
出席者氏名	別紙（委員名簿）
欠席者氏名	林委員
事務局職員氏名	山内地域福祉課長、大島地域福祉課参事、清水地域福祉課課長補佐、西谷地域福祉課主幹、川口中央人権福祉センター所長、増田長寿社会課課長補佐、枅谷障がい福祉課長、山根中央包括支援センター主査、小森協働推進課長、森田こども家庭センター所長、西尾健康づくり推進課長、（以上、鳥取市）、松本地域福祉課長、株本地域支え合い支援課主査、小田原地域福祉課主任（以上、鳥取市社会福祉協議会事務局）
会議次第	1 開 会 2 委員長あいさつ 3 議 事 （1）鳥取市地域福祉計画（原案）について（資料1）（資料1追加） 市民政策コメントについて（資料2） （2）評価指標について（資料3-1、3-2）（資料3追加） （3）その他 4 その他 5 閉 会
配付資料	資料1 計画（原案） 資料1追加 計画（資料編） 資料2 市民政策コメントについて 資料3-1 計画に対する評価指標（案） 資料3-2 基本計画（施策）に対する評価指標（案） 資料3追加 地域福祉推進計画 実施計画ロードマップ その他 次第、委員名簿、座席表

議事内容（要旨）	
事務局	・開会 ・課長挨拶 ・出席者の確認 ・委員長あいさつ
坪上委員長 （進行）	議事（1）計画の原案について（資料1、資料1追加、資料2）説明をお願いします。

事務局	資料 1、資料 1 追加、資料 2 説明
坪上委員長 (進行)	事務局の方から説明をしていただきました。委員の皆様から意見や質問等があれば伺いたい。
	質問特になし
坪上委員長 (進行)	それでは続きまして、(2) 評価指標について(資料3-1、3-2) (資料3追加) 説明をお願いします。
事務局	資料 3-1、3-2、資料 3 追加説明
坪上委員長 (進行)	事務局の方から説明をしていただきました。委員の皆様から意見や質問等があれば伺いたい。
D 委員	活動指標に関してなんですけれども、この A3 の表の 6 番目、12 番目、そして、裏面の 26 番のあたりの市社協さんの数字が、5 年間の数字を書かれているんですが、例えば 6 番目のところの支え愛マップが、単年で 15 という数字が出ています。これは 5 年間通して 15 ヶ所という書き方なのか、それとも単年で 15 ヶ所やって累計で 75 ヶ所までいくのかちょっとパッと見てわからないんですけれども。 例えば、累計で 15 ヶ所だったら 1 年間に 3 ヶ所しかやらないということになるので、これは余りにもちょっと低い数字だなというふうに思ったのですが、単年 15 で、累計で 75 までいくのであれば、15、30、45 というふうに増やしたほうがいいんじゃないかって思いまして、そのあたりの見解をお聞かせいただきたいです。 あと、福祉学習のところもそうだと思うんです。トータルで 20 ヶ所なんですけれども、単年度ベースで見ると、4 ヶ所、5 ヶ所みたいな感じになってくるので、こういう控えめな数字になっちゃうんじゃないかなと思ったところです。
坪上委員長 (進行)	それでは事務局、お願いします。
事務局	ありがとうございます。D 委員のご指摘の件ですけれども、この 15 というのは年間 15 ということでございまして、更新も含めて、15 ヶ所ずつできたらというところだと思っております。確かに書き方としてはちょっとわかりにくかったかもしれませんが、年間 15 ヶ所ずつ増やしていきたいと思っております。 また福祉学習の方もですね、20 ヶ所ずつぐらいできたらと思っています。今はまだまだちょっと数が少ないですが、担当します校区ごと、中学校区圏域等で、カウントしながらということで、20 ヶ所ずつ増やしていけたらというところでございます。表記のところが分かりにくくて申し訳ございません。年間の箇所数でございます。
D 委員	そうですか。随時修正していただいたらいいかなと思います。
事務局	例えば福祉学習を毎年取り組まれる学校もありまして、そういうので 1 年に 20 ヶ所というような表示を社協さんはされたと思います。 ですので、毎年 20 やってもですね、同じ学校さんが毎年やられるということで、全体の数としては 20 がずっとプラスしていくというふうな、そういう意味で毎年 20 ヶ所という表記を今はされているということなので、でも新しいのもどんどん

	増やしていくことも必要だと思うので、それをどう表記するかちょっとまた考えてみたいと思います。
D 委員	二つ考え方があってと思います。新規で数をとらえるのと、延べでとらえる方法があると思いますので、そこは考え方次第だと思っていますのでご判断をお願いしたいと思います。 あと、支え愛マップなんですけど、これは今回かなり重要な位置付けになっていると私は理解しているのですが、これが年間 15 件でいいのかっていうところがとても私は悩ましいなと思っておりまして、社協さんだけがやれば年間 15 件がやっぱり限界かなあというふうに考えられるところですけども、このマップづくりを支援できる人を増やして、例えばいろんな相談機関とかと連携しながら、地域に入って、この支え愛マップづくりを支援し、ときに指導できるような人を増やして、そして、皆さんで協力し合いながら地域に展開していけばその数を増やすことができるはずなんですよ。社協さんだけではないはずなんですよ、これって。そう考えると、もっとどういう実施体制で行うべきかというのをしっかり考えた上で、数字を増やしていくってということも今後十分考えないといけないことなのかなあということで、私からの意見として言わせていただきました。
事務局	ありがとうございます。D 委員のおっしゃる通りでございまして、今回市社協のみでは支え愛マップの普及というのはなかなか、今までも難しかったところがございます。今後いろんな方々のご協力をいただくということを踏まえまして、本会が中心となって取り組みを進めていくってということになろうかと思います。 支え愛マップを大きいツールの 1 つとして、皆さんが地域のことを一緒に考えていただくっていう場面を展開していくということで考えておりますので、実際に協力いただく、各団体様や関係機関等をどのようにつなげていくかというのは、今後検討させていただけたらと思っております。
D 委員	よろしくお願いします。何度も恐縮なんですけれども、私の個人的な感覚だったら 826 ある自治会が 5 年に 1 回ぐらいは更新できてないとまずいんじゃないのかなって思います。逆にそこからどういう体制を作っていけばいいのかなどですね、ぜひそういうご検討をいただけるとありがたいなと思っております。
坪上委員長 (進行)	よろしくお願いします。
C 委員	今、実施計画ロードマップというのを説明されましたけれど、行政の方特にうといんじゃないかと思うんですね。今、地域ごとに希薄化してきている中で、こうして見ましても、何か今までやってきているようなことなんですね。 行政の取組、市社協の取組、民間の取組があって、評価をしてくださいと出てますけれど、具体的なものがわかりづらい部分もありますし、これをどこで評価されてどこで生かされていくのか、そういう具体的なものがわかりづらい。ただ評価のしっ放しっていうことになれば、計画案が向上していかないわけですよ。 だけど今までの福祉を見ておきますと、なんか代わり映えのしないような、もうちょっと現状を踏まえて斬新な改革をしていかないと、もう住民にしても、人のことはどうでもいいというような風潮に変わりつつあるわけで、特に若い方。 それはやはり、教育の段階で、人と人との繋がりが大切だということとか、そ

	ういう教育を根本からしてないから、人のことはどうでもいいという時代になりつつある中で、もうちょっと具体的な対策が私は欲しいなと思っております。
事務局	今見ていただいておりますこのロードマップ、最初に雛形の案ということで提示をさせていただきました。C委員さんのおっしゃる通りで、実は、本当はこの行政の取組、それと実績が具体的に書いてあって、評価をしていくということですが、今これがないので本当に漠然としたものになってしまっていると思います。この内容につきましては、先ほども説明いたしました。 また6年度の実績、取り組み状況を踏まえて、令和7年度に開催いたしますこの委員会において、こういう取り組みを実施したいんだということを具体的に、今度はこの行政の取組、市社協の取組予定というところが入ったものをまた皆さんに見ていただいて、議論をしていただきたいなというふうに思っております。 C委員のおっしゃるように、なかなかこの計画、いわゆる理想というか目標を掲げて実際にやろうとしたときに、やはり地域の方々、いろんな関係の方々とのお話にも、理想はわかっているが、じゃあどうすりゃいいんだ、わしは何をすればいいんだという声も聞いております。ですので、そういったことをきちんと示せるように、1つ1つ、行政がやるべきこと、皆さんと一緒にやること、こういうことをしていきたい、というようなことをこの予定の欄に入れていって次回、次年度になりますけれども、お示しをしたいと考えております。
坪上委員長 (進行)	その他、ご質問がありますでしょうか。
Q委員	評価指標のところでお聞きしたいんですけども、地区コーディネーターを置くというのが結構冊子の方には書かれているんですけども、地区コーディネーターというのはどういう形で考えられているんだろうか。ネットワークを作るとか、それからシステム構築する部分はこのコーディネーターさんがされるのではなしに社協がされるんだろうか、この辺りがちょっとはっきりしないので、地区コーディネーターさんは、公民館に置かれるのか、その辺りもはっきりしないので、さっき言った評価指標も漠然としていて何かわかりにくいなっているのがあるので、ちょっと教えていただきたいと思いますと思いました。
事務局	今ここに地区コーディネーターの配置ということで具体数の目標を掲げておりませんが、ネットワークの数イコール地区コーディネーターの数というふうにご理解いただけたらと思います。 具体的にどうやってしていくのかというところですが、例えば想定としては、やはり地区公民館がこういった福祉活動の拠点だと、防災の拠点にも今後なりうるということで、地区公民館に配置をしていくという想定をしておりますが、具体的にどういうふうにしていくのかということは、もう少し議論、検討中ということでございます。 具体的にまだはっきりとお示しできておりませんが、そういうことも含めて、今この指標の表の備考欄に、7年度は仕組み検討・体制構築と書かせていただいておりますのは、そういうのも含めしっかりと7年度に検討していきたいということで、それぞれの地区の方にお示ししていくようなものを、7年度中にしっかりと検討していきたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思います。

坪上委員長 (進行)	その他ご質問いかがでしょうか。
E 委員	資料 3-2 の指標のところなんですけれども、21 番のところですね、「包括的な相談支援体制の充実」というところで、R7 が体制構築、R8 が 1 とありますけれども、ここの項目はその真ん中の指標説明のところで言うと、常設型の地区サロンや地区の福祉ネットワークなどの地域の相談の場から上がった生活課題が専門職につながった数ということであると思うので、結構これからのこの計画の中でもそういった場からリソースを拾い上げていくという、非常に重要な項目なのかなと思ってしまして、それで R8 の数が 1 っていうことであるとさすがに少し少ないのかなと思いました。 サロンとか、地域の間っていうところに専門職が関わって行って、入っていくっていうことになると、サロンの数を考えれば、年間に最低 1 件になったとしても結構な数になるんじゃないかなということで、ここはある程度そういう数字を設定することで、専門職やパソコンなどから拾った数を、たぶん今までもたくさん受けてるんじゃないかなと思うんですけども、そこを意識して協議いただくようになるために件数は、サロンの数とかそういうところを加味しながら設定してもいいのかなというふうに思いました。
事務局	令和 8 年度は指標を「1」と入れておりますが、備考欄の方に令和 8 年度で年間 1 件「以上」ということで想定はしていたんですが、今おっしゃられたことを加味して検討させていただきたいと思います。
坪上委員長 (進行)	計画全体に対してのご意見を伺いたいと思いますが、何かございますでしょうか。
G 委員	高齢者や障がい者と、先ほどありました要支援者の方々の対応に関してなんですけども、例えば昨年 1 月にありました能登半島地震で、いわゆる災害関連死と言われている方は直接的にその災害で亡くなった方よりも多くなっていて、300 名以上の方が、災害関連死ということで亡くなられたっていう報道がありました。やはりそこには福祉的な視点が必要なんじゃないかっていう意見もありまして、なかなか、災害ですので、どういう作業をすればいいのかっていうこともあるかとは思いますが、いざというときにそういった支援体制がとれるような仕掛けというようか仕組みというか、そういった発想・視点も必要なんじゃないかなということ、ちょっと最近そう思ったものですから、1 つの意見として言わせていただきました。
事務局	今、G 委員さんの方からご指摘いただきました、いわゆる災害ケースマネジメントといいますか、いわゆる生活再建に向けてのいろんな取り組み、そういった中で、今おっしゃったような、災害関連死を防いでいくという取り組みは非常に大事なことだろうと思っています。 このたび皆さんに協議いただきましたこの計画の中には、そこまで踏み込めていない部分がございます。平時からの見守り活動を充実して行って、避難行動が起こって、来ていただけるようなという仕組みをまずは最初に考えてきたところです。 ご指摘のように、発災後にそういった災害関連死を防止するであるとか、おっ

	しやった福祉の視点というものの、国の方も災害基本計画という方針の中に、場所の支援から一人の支援ということに変換する必要があるということで、そういった福祉的な視点が大事だということも、国の方も示しております。 それを踏まえまして、本市としても、危機管理部局との連携というのはこれまでもお話ししてきたんですけども、より一層深めて、そういった発災後の対応についても、この計画の中に今後どう盛り込むかということもあるんですけども、市の全体の課題として考えていく必要があるというふうには認識しております。
坪上委員長 (進行)	その他のご質問はございますでしょうか。
Q委員	最後になるかもわからないのでちょっと一言。 地域推進計画の方なんですけども、全体の資料をいただいています、文言のことになるかわからないんですけども、ちょっと教えていただけたらと思います。これで見ますと、地区コーディネーターがもちろんあるんですけども、それから地区のボランティアとかいろんな言葉が使われているんですけど、81ページの方には、地域ボランティアと地区ボランティアと使い分けをされてますし、同じページの中にも①「見守り支援・生活支援」の行政の取り組みの中では、地域ボランティアって書いてありますし、民間の方向性につきましては地区ボランティア、以下については全て地区ボランティアとされています。今後、いろいろ使われていると、よくわからないところがあるので、統一する形にされた方がいいんじゃないかなと、いろいろ見る中で感じました。 それからやっぱり言葉として申し分けないんですけど、アウトリーチっていうのはよく使われているんですけども、一般の方には非常になじみのない言葉なので、例えば脚注みたいな形で、アウトリーチはこういうことですよとか、そういうことを書かれた方が、ちょっと丁寧なのかなと考えております。 それから先ほどちょっと一言言いましたけども、地区コーディネーターが全て取り仕切るような格好になるのか、もしくは市社協、市からの支援をいただきながらということなんですけども、74ページの、重点的な取組の図の地区を単位とする福祉ネットワークの中には、さっき言いましたけど、もう中心的な存在として地区コーディネーターがなっております。そして、ここの屋根の中には、公民館で置くような形になっています。 はたして、ここのところで、前回D委員も心配されていましたが、公民館に置いていいんだろかなっていうのが非常にちょっと気になるところなので、この辺りでこの計画がオープンになりますと、公民館が動くのかなと言う形でとらえられるので、公民館の館長さんと、コーディネーターさんとの仕分けをどうするのかとか、これを見て非常に違和感を感じるのですが、これからどのような形で整理というか、考えたらいいのか教えていただけたらと思います。
坪上委員長 (進行)	事務局よろしいですか。一つずついきましょうか。
事務局	初めに、地区ボランティアと地域ボランティアの使い分けのご意見をいただきました。こちらにつきましては、もう一度精査をさせていただいた上で出したいと思います。

	アウトリーチの方ですが、実は、ページで言いますと 17 ページになるのですが、こちらの方に重層的支援体制整備事業の提示をしておりますので、そこで最初にアウトリーチという言葉が出てくるものですから、こちらの方に記載をさせていただいておりますので、ご理解いただければと思います。
事務局	もう 1 点、地区コーディネーター、公民館の配置についてということで、ご質問・ご意見いただきました。 実はこの計画案を皆さんにお諮りをしてきたわけですが、地区公民館の館長会というのがございまして、今ここの公民館が今後そういった拠点になる、この計画も含めて、そこにコーディネーターを配置してというような形で、この計画の概要というものを説明させていただく機会がございました。その時には、出席された館長さんからは何もご意見をいただけませんでした。それが、よし 100% OK だ、という解釈ももちろんしてはいいです。先ほど言いました、わかったけど、じゃあどうしたらいいんだ、というところを示さないままの概要説明だったものですから、ご意見も出なかったのかなあというふうには思っております。 ですので、今後進めていくにあたって、先ほどから申し上げておりますけれども、次年度、7 年度に、そういった整備、体制の整備の仕方であるとか、そういったことを、福祉の部分だけでできる話ではございませんので、公民館を所管する部署であるとか、いろいろ協議もさせていただきながら進めたいと思っています。 ただこの絵に書いておりますように、公民館が場所としては拠点になり、コーディネーターもそこに配置してということで、館長さんとコーディネーターとの住み分けであったりだとか、今でもいろんな想定される課題がたくさんありますので、そういったものを整理しながら、そこをどうやって進めていくのかということが非常に重要だろうとは思っております。 まだちょっと結論を先延ばしたような形になってしまっていますが、そこを十分 7 年度には協議、検討していきたいというふうに思っております。
C 委員	意見とか質問ではなく、私からの要望になるのですが、こうしてなんかいろいろと皆さんが出てこられて、いろいろと地域で問題を抱えているわけですね。 その中で、アンケートとか評価なんて、こんなもの 1 つも役にはたちません。 ですから、行政もやっぱりスタイルを変えてですね、地域に出て行って、学習も研修も大事です。大事ですけど、こういうものはその場でパッと終わっちゃうんですね。 ですから、行政の方はやっぱり出て行って、もうどんな機会でもいいから出て行ってですね、もう歩く行政マンになっていただきたいんですね。 それで、やっぱりそういう地域が何を抱えているかっていうことを精査して行って、そしてそれを福祉に生かしていく。そういうことをやって欲しいんですよ。机の前で、文書ばかり書いていても住民の方には伝わりません。そういうことをお願いしたいと思います。
事務局	ありがとうございます。平素からということもあるでしょうし、計画ができましたらやっぱりそういったものを、それぞれに当然発信していく必要もございしますので、説明会等を開いたりとかそういう機会を設けながら、計画の説明だったりこれから進むべき方向、進め方、そういったものを地域の方々と話し合いなが

	ら進めて行きたいというふうに考えております。以上です。ありがとうございます。
D 委員	先ほどの 81 ページのところですが、Q 委員さんからご指摘のあったところですが、地区を単位とする地域ボランティアという表現のところですが、地区を単位とするボランティア活動にされたら、すっと通るんじゃないかなという、ちょっとここは修正意見です。 そしてその地区を単位とするボランティア活動というのは、下に出てくるのはすべて地区ボランティアだという、こういう整理をされたらいいんじゃないかなと思います。 あとすみません。これもお願いになるんですが、1 丁目 1 番地の地区を単位とするネットワークやコーディネーターの配置とかですね、特に財政に絡むような、いわゆるやっぱり難しい案件に関しては、早く議論しなきゃいけないですね。 前回大失敗だったのは、計画を作ってですね、計画ができましたというところでそのあとお休みされたんですね。人事異動もあってですね、議論がすぐに始まらなかったんですよ。 この予算に関連するものっていうのは概ね夏ぐらいまでには、調整し終えないと、具体的な形が見えないと予算要求できないはずなんですよ。 なので、本当に申し訳ないですけども、この計画が出来て一息置くんじゃなくって、もう 4 月から早速そのネットワークの形、モデル地区というものを、具体的に想定した議論をお願いしたいというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。
坪上委員長 (進行)	事務局よろしいでしょうか。
事務局	はい。ありがとうございます。いろんな財政的な問題というのは非常に大きな問題でもありますので、当然早めに詰めていくという作業が必要でございます。 計画についても当然、できて終わりではなくて計画を作ってそこからスタート。 次からが正念場だというふうに思っておりますので、休むことなく、やっていきたいと思います。
坪上委員長 (進行)	今後のスケジュールになるんでしょうけども、そういったところを詰めていって細かいところを精査していくという作業をしていただきたいというふうに思います。よろしくお願いします。 その他、ご意見ございますでしょうか。よろしいですか。 そうしますと評価指標につきましてはいろいろ修正意見があったと思います。 指標につきましても単年度で示すものなのか、累計で示すものなのか、その辺の統一をお願いしたいということでございます。 それと一步一步、前に進むような指標にしていいただきたいなと思います。横並びっていうことではなくって、少しでも前進していただくような指標にしていだけたらと思います。 それと若干、計画についても手直しするところが出てくるかもしれません。これにつきましては委員長、副委員長、事務局に一任していただきたいというふうに思いますのでよろしくお願いいたします。

	その修正したものをもって、当委員会の鳥取市地域福祉推進計画案としたいと思いますのでよろしくお願いいたします。
D 委員	すみません。前回の計画では、3 年経過時点で中間見直しっていうものを位置付けていたんですけども、今期は何か明確に書かれてないような気がしたんですけども、その辺いかがでしょうか。
事務局	前回につきましては、こういったいわゆる評価指標的なものを作っていなかったということで、3 年目のときに見直しという作業をさせていただきました。 その見直しのきっかけとしては、再犯防止計画などを包含したとかそういったこともあるだろうと思います。 この度はですね、毎年度、先ほどちょっと概要を説明させていただきました、いわゆる評価というものを毎年度行っていくという中で、やはりその評価を見ながら、必要であれば計画の見直しを行うというような感じで行っていきたいと思います。ですので、年度を決めて、いつ見直すとかということではなく、毎年度の進行状況なりその実績等も見ながら、柔軟に対応していきたいという意図でございます。
坪上委員長 (進行)	はい。ありがとうございます。そうしますと計画については以上ということで、集約させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。 続きまして議事 3 に移りたいと思います。 その他についてということで事務局からお願いいたします。
事務局	その他は特にございません。
坪上委員長 (進行)	そうしますと、今回で今年度の委員会、これが最後となります。 次から新しい計画に沿った取り組みの進行管理や評価について協議いただくと、来年度以降はそういった形になるということになります。よろしくお願いいたします。
事務局	では本日の会議はこれで終了とさせていただきたいと思います。 ありがとうございました。